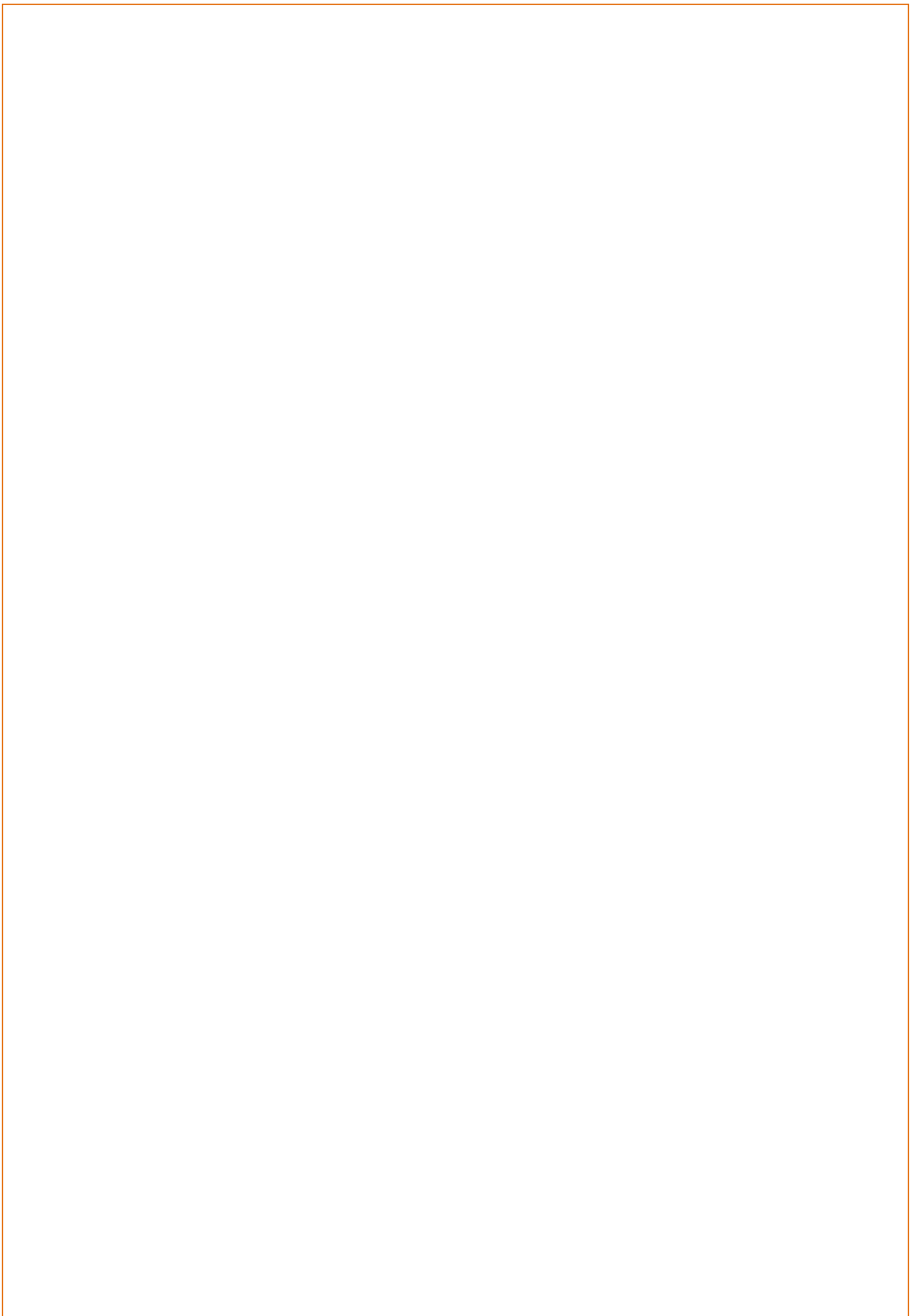


# えひめ農業振興基本方針 2016

—愛顔あふれるえひめ農業・農村を実現するために—  
～かかわる・つながる・つたえる～

平成28年3月

愛媛県



## ～はじめに～

「農業」は、我々の日々の暮らしや健康を支える農畜産物を生産する重要な産業です。

昔、食料を求めて移動しながら生活してきた人々は、農業が発達したことで定住して食料を作れるようになりました。

そして、そこで安定的な生活を行うことができるようになったため、「むら」や「まち」が生まれ、「地域」が発展してきました。

私たちの住む「愛媛」では、温暖な気候や豊かな日照時間といった自然の恵みを生かしつつ、また、中山間地域が県土の7割を占めるという不利な条件をたゆまぬ努力により克服しながら、「愛媛産には、愛がある。」をキャッチフレーズに、全国一の生産量を誇るかんきつ類やはだか麦など、良質で多彩な農畜産物が生産されています。

しかしながら、農業に対して、「きつい」、「厳しい」、「もうからない」などの負のイメージを持たれている方が多いためか、農業を職業の選択肢とする若者は非常に少なく、少子高齢化や人口減少の進行とあいまって、農業にたずさわる方が大きく減っている状況にあります。

一方で、農業という生産活動に「やりがい」と「希望」を持って取り組んでいる生産者も、おおぜいいらっしゃいます。

食べることは、人が生きていく上で不可欠で、かつ大きな喜びでもあり、農業は、食べる物を「いかにおいしく」「いかにたくさん」作るかという命題に対して、英知を結集してきた「命の基づくり」であると思います。

そして、その「命の基づくり」をこれからも継続していくことで、「地域」が維持・発展していくのではないのでしょうか。

このため、「えひめ農業振興基本方針 2016」は、農業に「かかわる」、農業で「つながる」、農業を「つたえる」という三つを基本方向に、皆様と一緒に前向きにチャレンジする農政を展開することにより、負のイメージを払拭し、将来に夢と希望が持てる「愛顔あふれる農業・農村」を実現したいとの強い思いを込めて策定しました。

『えひめの農業ってすばらしい！』

県では、そう自信を持って言えるよう、また、皆様方にそれを実感していただけるよう全力で取り組んで参りますので、ともにチャレンジしていただければ幸いです。

平成 28 年 3 月

愛媛県知事 中 村 時 広



【第1】

えひめ農業振興基本方針 2016 の策定に当たって

- (1) えひめ農業振興基本方針 2016 の位置付け・・・・・・・・・・ 1
- (2) 農業者の皆さんからのメッセージ・・・・・・・・・・ 2
- (3) 農業に関するイメージについての県民アンケート調査・・・・・・ 3
- (4) 農業振興に取り組む上での基本方向・・・・・・・・・・ 5
- (5) 理想的な農業・農村の姿・・・・・・・・・・ 6

【第2】

- 「えひめ農業振興プラン 2011」についての振り返り・・・・・・・・・・ 7
- 担い手の確保・育成について・・・・・・・・・・ 8
- 農地の保全と生産基盤の充実について・・・・・・・・・・ 11
- 試験研究による技術開発について・・・・・・・・・・ 13
- えひめブランドの魅力向上と販路拡大について・・・・・・・・・・ 15
- 消費者と農業者との絆づくりについて・・・・・・・・・・ 18
- 食の安全・安心の確保について・・・・・・・・・・ 20
- 6次産業化・農商工連携の促進について・・・・・・・・・・ 23
- 農村の活性化について・・・・・・・・・・ 24
- 交流推進と人材活用について・・・・・・・・・・ 26

【第3】

- 愛顔あられるえひめ農業・農村を実現するために（県域版）・・・・・・・・ 28
- (1) より多くの多様な担い手を確保・育成していくために・・・・・・・・ 29
- (2) 農地・農村を守るために・・・・・・・・・・ 31
- (3) えひめの「農業力」を高めるために・・・・・・・・・・ 34
- (4) 食べ物の大切さを伝え、農業を今以上に身近なものにするために・・ 37
- (5) 地域でつながっていくために・・・・・・・・・・ 40
- (6) えひめ農業を衰退させないために・・・・・・・・・・ 42

【第4】

- 愛顔あられるえひめ農業・農村を実現するために（地域ブロック版）・・・・ 44
- (1) 四国中央ブロック・・・・・・・・・・ 46
- (2) 西条ブロック・・・・・・・・・・ 48
- (3) 越智今治ブロック・・・・・・・・・・ 50
- (4) 温泉ブロック・・・・・・・・・・ 52
- (5) 伊予ブロック・・・・・・・・・・ 54
- (6) 久万高原ブロック・・・・・・・・・・ 56
- (7) 大洲喜多ブロック・・・・・・・・・・ 58
- (8) 八西ブロック・・・・・・・・・・ 60
- (9) 西予ブロック・・・・・・・・・・ 62
- (10) 宇和島ブロック・・・・・・・・・・ 64
- (11) 鬼北ブロック・・・・・・・・・・ 66
- (12) 愛南ブロック・・・・・・・・・・ 68

# 【第1】 えひめ農業振興基本方針 2016 の策定に当たって

## (1) えひめ農業振興基本方針 2016 の位置付け

農業が、人間の日々の暮らしや健康を支えるものであることを改めて認識し、これまで脈々と引き継がれてきた「命の基づくり」を次世代にしっかりとつないでいくためには、少しでも多くの県民の方々に農業に関わっていただくことが大切です。

この基本方針は、県民の皆さんが生産者の方々とともに様々な場面で農業に関わることで、「きつい」「厳しい」「もうからない」などの負のイメージを払しょくし、「やりがいのある」「成果が出ればもうかる」といった明るいイメージを持っていただきながら、愛顔あふれるえひめ農業・農村を実現するために進むべき方向性を示すものです。



## (2) 農業者の皆さんからのメッセージ

この基本方針を作るに当たって、多くの農業者の方々のところに行ってお話を聞かせていただきました。その際に印象に残った言葉や、皆さんに是非知っておいていただきたい言葉などをここにお示しします。

### 農業って素晴らしい！

- 真面目にやれば、サラリーマンにも匹敵する収入を得られるし、サラリーマンに比べて、頑張りがダイレクトに反映され、結果が見えるのが嬉しい。
- サラリーマン時代の「あー疲れた」と農業のそれは全く違う。
- 農業は自由で自分のやりたいようにできるし、勉強よりも何よりも牛が好き。
- 生まれ育った場所だからこそもうひと踏ん張りできる！大変な時期だからこそチャンス。
- 今の時代、一般企業に就職しても頑張らないといけない、それなら好きなものに触れていけるような職業に就きたい。
- 農業は地下水等の環境保全にとっても役立っているということをわかって欲しい。

### 農業はこうすればもっと良くなる！

- 売る時はデザインが勝負！あとは、言葉や物語で訴える。
- 田舎で農業をするときには、もっとおしゃれ感を持とう！
- 農業者はもっと経営者であれ！
- 農業だからこそ、マーケットの把握と出口戦略がとても重要。
- 売れるものを作るにはとりあえず試すこと、そして、自分の作っているものにももっと自信と誇りを持つこと。
- バイヤーは個性のある農産物を望んでいる、様々なところとコラボしていくことが大事
- 地域に根差し、ファンになってもらう活動が大事。
- 農産物は口コミ次第で売れるもの。変えていくという勇気が必要。
- 時代の変わり目にあって、考え方を変えていかないといけない。
- 愛媛は「海のもの」から「山のもの」まで何でもそろそろ素晴らしい場所なので、もっと誇りを持つべき。
- 大学や他産業で学んだことは、農業に必ず生きてくる。

### 私の思い（夢や希望）！

- 100年の歴史ある産地を維持していきたい（プロの農家さんの格好良さにあこがれて）。
- 目標は、過疎地域で1,000人の雇用、現場との距離を近いものにしたい。
- 都会の人が食べていけるのは、自分たちがいるからだという自負を持って作りたい。
- 食を通じて、地域の魅力を知ってもらいたいし、故郷を大切に思ってもらいたい。
- 美味しいコメのある地域には美しい風景がある、美しい風景のあるところには美味しいコメがある。
- 都会で暮らしている人も、元をたどれば多くは農家。
- 子どもたちが農業者と触れ合うことで職業としてのイメージアップを図りたい。
- 子どもたちには、給食などで小さいときからみかんを食べて欲しい。
- 子どもたちに農業の素晴らしさを伝えることで、地元に残って欲しい。



### (3) 農業に関するイメージについての県民アンケート調査

本県では、愛媛農業を振興していく上で、少しでも負のイメージを払しょくすることを目指しつつ、前向きに考え、積極的にチャレンジしていきたいと考えています。

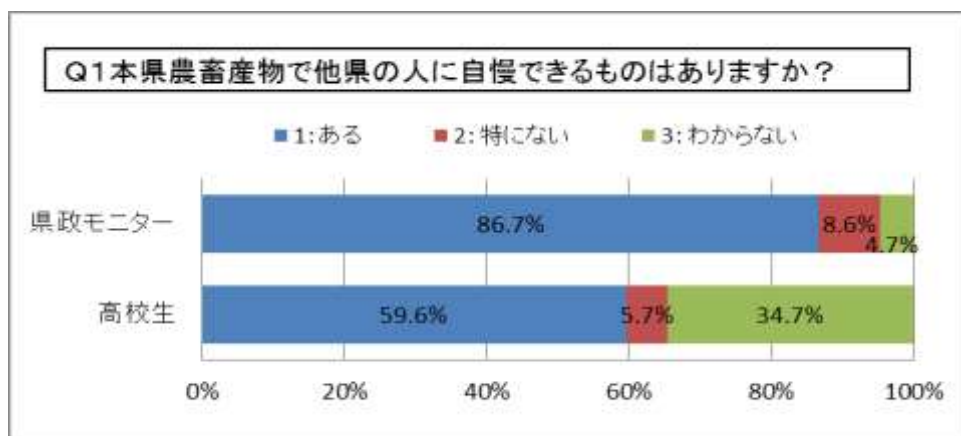
そこで、農業に関するイメージについて、県民の皆さんがどのように思っているのかを把握するため、アンケート調査を行いました。

【農業に関するイメージについてのアンケート調査（平成27年10月実施）】

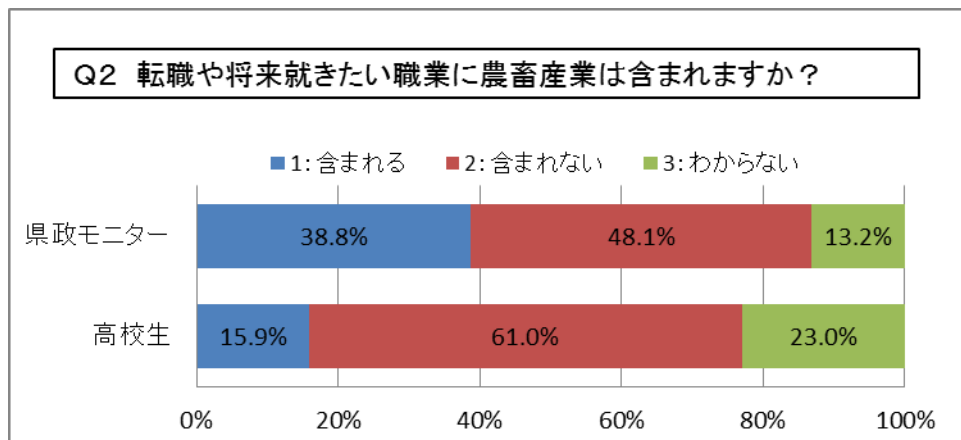
県政モニター（回答 131 名）

高校生：県内の実業科（農林水産関係学科）に在籍する3年生（回答 752 名）

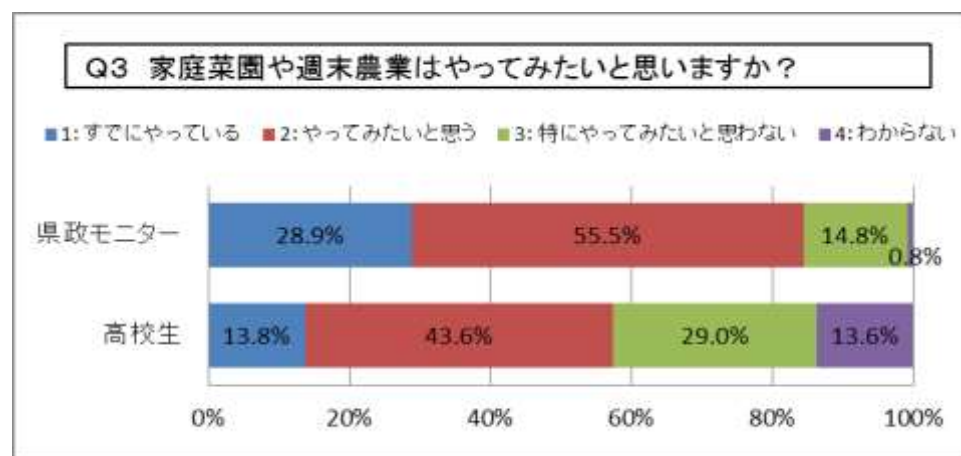
その回答は、以下のとおりです。



県政モニターの多くが「自慢できるものがある」と回答しているのに比べて、高校生は6割程度にとどまっており、「わからない」と答えた方が35%近くもいます。

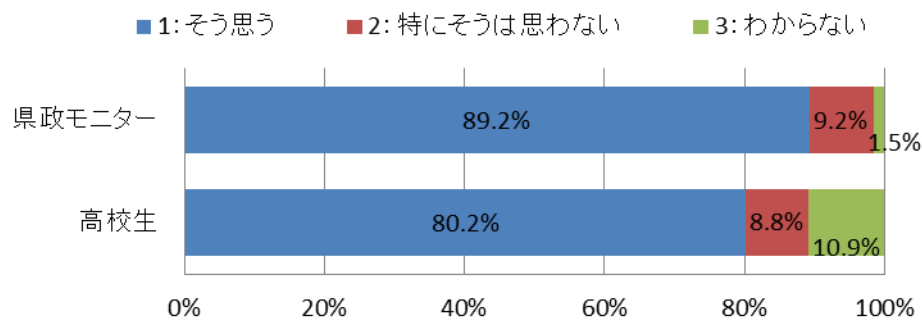


県政モニターの4割近くは、農畜産業に就くことも視野に入れています。高校生は、農業に何らかの関わりを持つ実業科にありながら、約6割が職業として農畜産業を考えていないという現実が浮かび上がってきました。



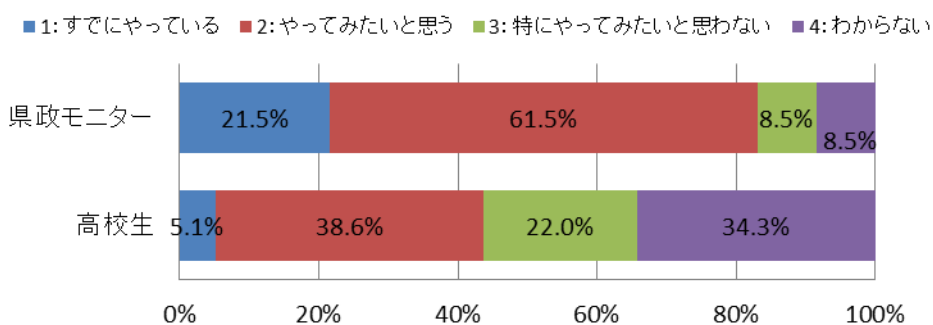
県政モニターの8割以上が、何らかの形で農業に関わりたいと考えていて、3割弱は、すでに携わっていますが、高校生は、いずれも低い結果となっているほか、約3割は、「特にやってみたいと思わない」と回答しています。

#### Q4 食材は国産が良いと思いますか？



県政モニター、高校生ともに、国産の方が良いと答え方が多くなっていますが、高校生では約1割が、「わからない」と回答しています。

#### Q5 本県農畜産業で自分が貢献できる範囲のことはしたい(している)と思いますか？



県政モニターが、「やっている・やってみたい」を合わせた割合が8割を超えるのに対して、高校生は、4割強にとどまっており、「やってみたいと思わない」が2割強、「わからない」が3割を超える結果となっています。

実業科に在籍する高校生は勿論のこと、これから職業を選択しようとする若い世代の方々が、いかに農畜産業に関心を持つか、また、持ってもらえるように農畜産業の持つイメージや携わる環境などを変えていくかなどについて考え、実践していく必要があります。

このアンケート調査は、この基本方針の推進期間中、同じ設問で毎年行うことで、経年変化を見ていきたいと思えます。

今回の結果から少しでも「やってみたいと思わない」や「わからない」と答える方を減らし、興味を持ってもらえる方の割合を増やしていくことが、今回の基本方針の大きな目標のひとつです。



## (4) 農業振興に取り組む上での基本方向

### 農業に「かかわる」



皆さんの地域にとって農業が身近になればなるほど、親しみを感じることができるのではないのでしょうか？

消費者の方を中心にできるだけ多くの方が農業に関わっていくことで、農業の大切さ、或いは素晴らしさを実感していくことが大切です。

農畜産物ができるまで、また、できてから食卓に上がるまでの流れをもっと知っていただくことも関わりを深めることになると考えています。

### 農業で「つながる」



農業に関わることで、地域の人や生産者の方々とのコミュニケーションも増えるのではないのでしょうか？

生産者同士は勿論のこと、他分野（情報発信の分野や販売に関する分野、営業に関する分野など、これまであまり考えられなかった分野）とのつながりを意識していくことも愛媛の農業振興につながると考えます。

また、「産（産業）・学（大学等研究機関）・官（地方公共団体）・民（NPO/地元住民）・金（金融機関）・言（地元報道機関）」といったそれぞれの立場がつながって支援を行っていくことも重要です。

### 農業を「つたえる」



農業が「命の基づくり」であることや、農地が「地域の財産」であることを認識すべきではないのでしょうか？

生産者の方を中心に、これまで培ってきた農業に対する生産技術などを、後継者に伝えていくことが重要です。

また、きつい、厳しいというイメージを変え、やり方によってはもうかるということ伝えていくことが、意欲ある後継者を呼び込むために必要と考えます。

この3つのキーワードは、第3及び第4の「愛顔あふれるえひめ農業・農村を実現するために（県域版及び地域ブロック版）」に掲げる推進項目を実施する上での、基本的な考え方となるものです。

## 前向きに考え、積極的にチャレンジする農政の展開

- 農業に対する「負のイメージ」の払拭
- 農業の成長産業化に向けた取組（産業政策）の実行
- 農村の活性化に向けた取組（地域政策）の実行

### 本県農業における体質強化を図る

- 農業産出額：1,200億円（現状維持）
- 「[えひめ愛顔の農林水産人データベース](#)※」登録人数 150人
- 農業を職業として選択する高校生の割合等の増加
  - 【指標とする県政モニター、高校生へのアンケート調査項目】
  - ・本県農畜産物で他県の人に自慢できるものがあると答えた人
  - ・転職や、将来就きたい職業に農畜産業を含むと答えた人
  - ・家庭菜園や週末農業をやってみたいと思う人
  - ・食材は国産が良いと思う人
  - ・本県農畜産業で自分が貢献できる範囲のことはしたい（している）と思う人

※一般的に根付いている農業に対する負のイメージを、払しょくするため、実際に頑張っている農業者の活動状況などを、本県がデータベース化したもの（p30参照）。

主要指標

## (5) 理想的な農業・農村の姿

農業に対するイメージをアップしていくことで考えられる「地域における農業・農村の理想の姿」は、どのようなものなのでしょうか？

どのような姿であれば、農業に携わる人を中心に、地域に住んでいる人々が幸せに感じることができるのかをイメージ化してみました。



### 農業に「かかわる」

- 家庭菜園、グリーン・ツーリズムなど農業者以外の人たちも農業・農村に関わっている
- 食べ物ができる過程・苦勞をみんなが体験している
- 農村を県民の財産だと認識し、都市の住民の誰もが何らかの支援をしている



### 【夢と希望の持てる農業】

- 農業が憧れの職業となる
- 農業で安定した収入が得られる
- 農業者のチャレンジや努力が報われ希望が持てる



### 農業で「つながる」

- 身近なところに農業者がいて、近くで地元の農畜産物を買うことができる
- 愛媛で作った食べ物をみんなが大切に感じて選ぶ
- だれもが生き生きと生活し農村に住みたくなる
- 行政、関係団体、農業者、住民が一体となって農地や豊かな自然を守っている

### 農業を「つたえる」

- 自慢できる愛媛の食べ物が沢山ある
- 「いただきます」「ごちそうさま」の意味を意識し実践している
- 捨てられる食べ物をもったいないと感じ考え行動する
- 秋祭りなど伝統的な地域行事や伝統料理、文化が守られている

愛顔あふれるえひめ農業・農村の実現